

道営工業用水道

道営工業用水道事業の経営状況について



その先の、道へ。北海道
Hokkaido.Expanding Horizons.

令和5年3月
北海道企業局



道営工業用水施設の概要

施設名	室蘭工水	苫小牧工水		石狩工水
		第一施設	第二施設	
給水区域	室蘭市 登別市	苫小牧市 厚真町 安平町		小樽市・石狩市・ 札幌市の一部
給水開始 (経過年数)	S42.11 (55)	S45.4 (52)	S54.4 (43)	H11.4 (23)
給水能力(m ³ /日) (契約水量(m ³ /日))	115,000 (103,260)	200,000 (147,250)		12,000 (6,293)
受水企業数(社)	8	39		33
基本料金(円/m ³)	18	20		55
管路延長(km)	25.0	61.5		43.6
水源	幌別ダム (胆振幌別川)	勇払川 安平川		豊平川
供水	原水給水	浄水処理水		浄水処理水

※令和5(2023)年3月31日見込

損益計算書（北海道工業用水道事業全体）

1 令和4年度最終予算の状況

（税抜、単位：千円）

科 目	令和3年度 決算額	令和4年度		増 減 B-A	主な増減理由
		当初予算 A	最終予算 B		
営業収益	1,802,715	1,863,296	1,877,943	14,647	
うち給水収益	1,801,314	1,861,853	1,876,500	14,647	特定使用及び超過使用の料金収入
営業外収益	312,192	230,926	234,388	3,462	
うち雑収益	117,773	29,298	29,303	5	発生土売却収入
うち長期前受金戻入益	194,124	201,597	204,785	3,188	固定資産の取得
収 益 計	2,114,907	2,094,222	2,112,331	18,109	
経常損益					
営業費用	1,812,028	2,108,410	2,089,337	▲ 19,073	
うち減価償却費	911,720	919,723	943,951	24,228	固定資産の供用開始
うち修繕費	89,888	117,958	101,551	▲ 16,407	排水溝修繕等の延期
うち委託料	375,421	493,192	494,101	909	汚泥処理量の増加
うち他管理運営費	434,999	577,537	549,734	▲ 27,803	人件費の減少
営業外費用	117,757	107,623	106,573	▲ 1,050	
うち支払利息	104,037	93,233	92,183	▲ 1,050	過年度の高利率企業債の償還終了に伴う平均利率の低下
費 用 計	1,929,785	2,216,033	2,195,910	▲ 20,123	
経 常 損 益	185,122	▲ 121,811	▲ 83,579	38,232	
特別損益					
特別利益	84	—	—	—	
特別損失	83,178	7,196	7,015	▲ 181	固定資産除却損の減少
純 損 益	102,028	▲ 129,007	▲ 90,594	38,413	

（注） 表中における計数は、それぞれ四捨五入によっているので、計とは一致しない場合がある。

損益計算書（北海道工業用水道事業全体）

2 令和5年度当初予算の状況

（単位：千円）

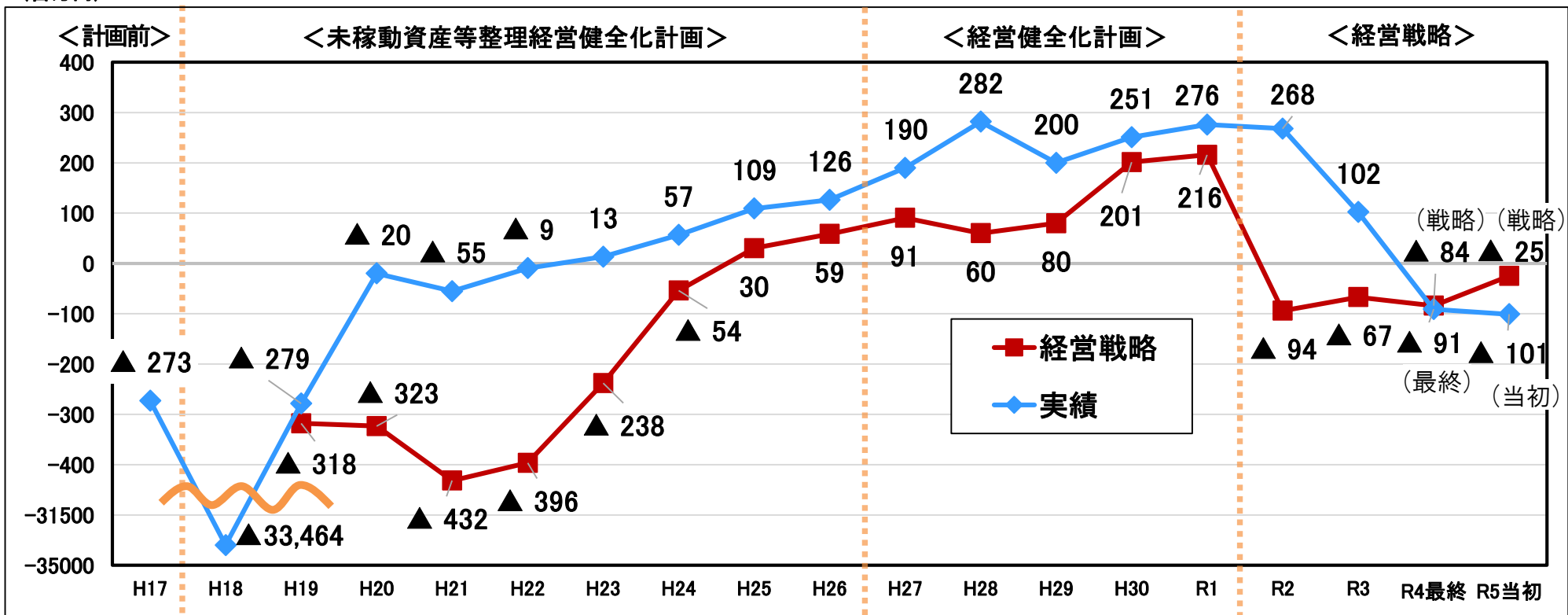
科 目		令和4年度予算 金 額	令和5年度予算 金 額	増 減	主な増減理由
収 益	営業収益	2,049,481	2,083,583	34,102	
	うち給水収益	2,048,038	2,082,147	34,109	苫小牧 +31,658,石狩▲21,154,全体+22,668(給水日数4日増)
	営業外収益	240,540	245,565	5,025	
	うち長期前受金戻入益	201,597	192,834	▲ 8,763	国庫補助金対象事業の減
収 益 計		2,290,021	2,329,148	39,127	
的 収 支	営業費用	2,187,298	2,201,076	13,778	
	うち減価償却費	918,566	931,289	12,723	固定資産の供用開始（苫小牧第二期改修事業）
	うち修繕費	133,240	141,850	8,610	施設老朽化に伴う補修工事の増(苫小牧ポンプ設備補修工事など)
	うち運営管理費	555,684	576,025	20,341	苫小牧発生土運搬処理業務委託費の増
	営業外費用	107,623	119,230	11,607	
	うち支払利息	93,233	77,908	▲ 15,325	過年度の高利率企業債の償還終了に伴う平均利率の低下
	うち長期借入金利息	0	20,669	20,669	一般会計からの長期借入金に係る支払利息の増
特別損失	7,196	5,037	▲ 2,159	室蘭の固定資産除却損(第一ゲート)の減	
費 用 計		2,302,117	2,325,343	23,226	
収 支 差 額		▲ 12,096	3,805	15,901	
純 損 益		▲ 129,007	▲ 101,266	27,741	消費税等相当額 差引後

（注）表中における「うち数」は主なもののみ記載。

3 経営改善の状況

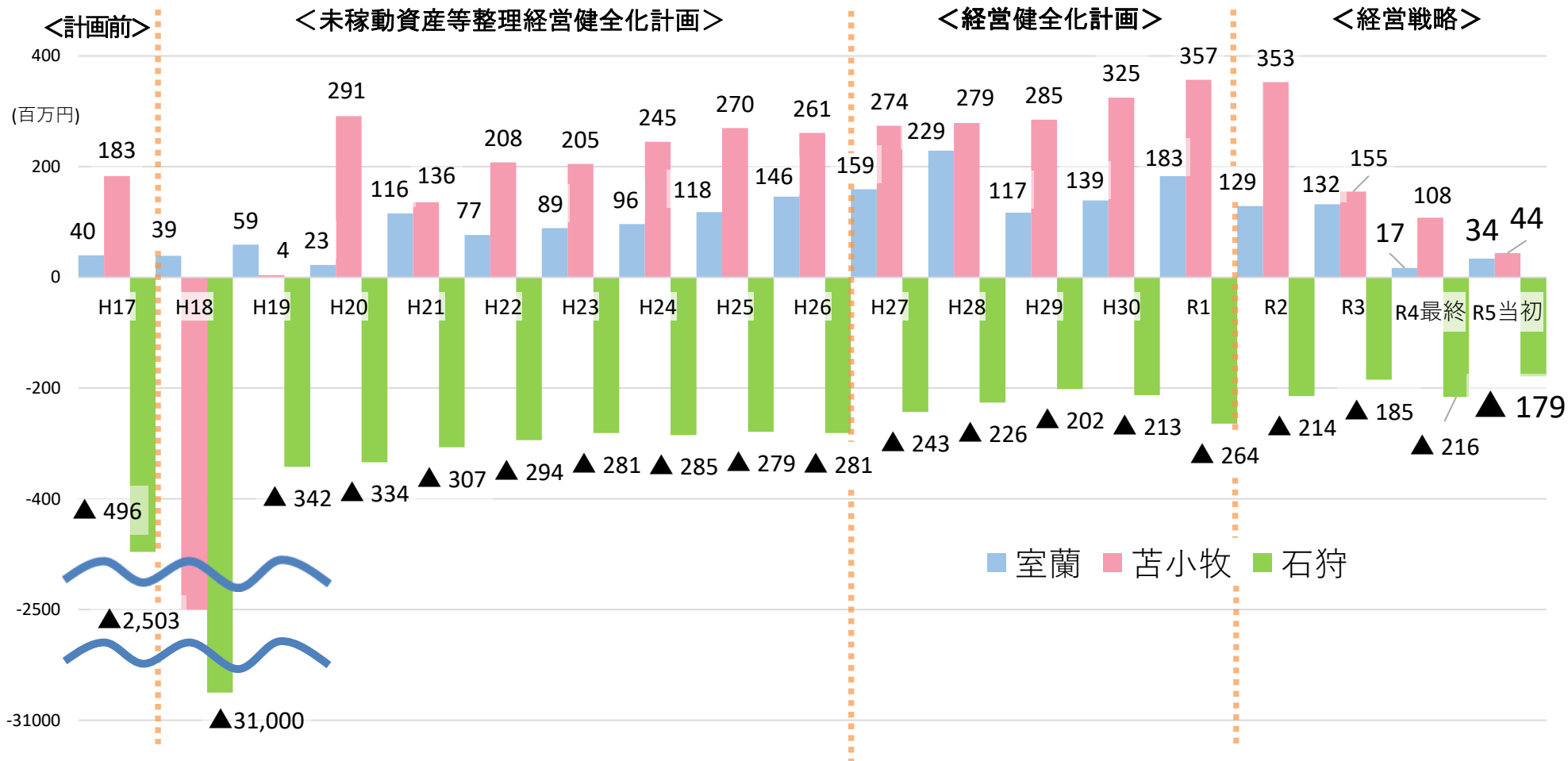
損益の推移

(百万円)



- 未稼働資産整理を行ったH18年度は、資産処分に伴う特別損失の発生により、33,464百万円の純損失を計上。
- 未稼働資産整理後は、資産処分に伴う減価償却費の減や、企業債繰上償還に伴う支払い利息の減により収支が徐々に改善し、H23年度以降は黒字を継続。
- 経営戦略策定以降においても決算では計画を上回る結果で経営改善が進んでおり、令和5年度当初予算では、最近の電気代や資材費の高騰等のため戦略より損失が増加した。

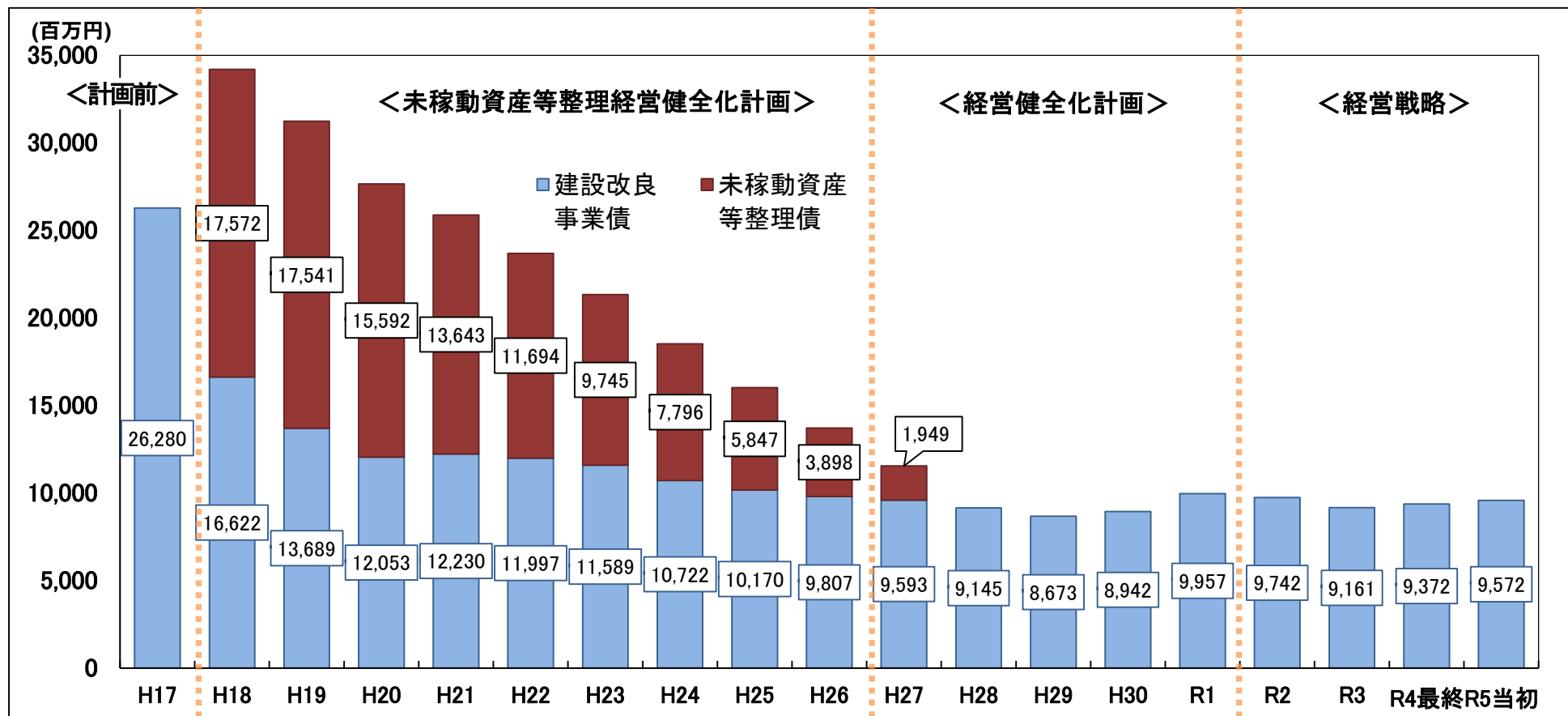
4 工水別損益の推移



○平成18年度末に苫東及び石狩工水の未稼動資産整理による多額の特別損失を計上した後、室蘭工水及び苫小牧工水については純利益を毎年継続的に計上している。

○石狩工水については契約率が低いことなどから依然として純損失を計上しており、これに伴う運転資金不足額について、一般会計から繰入を受けている。

5 企業債残高の推移

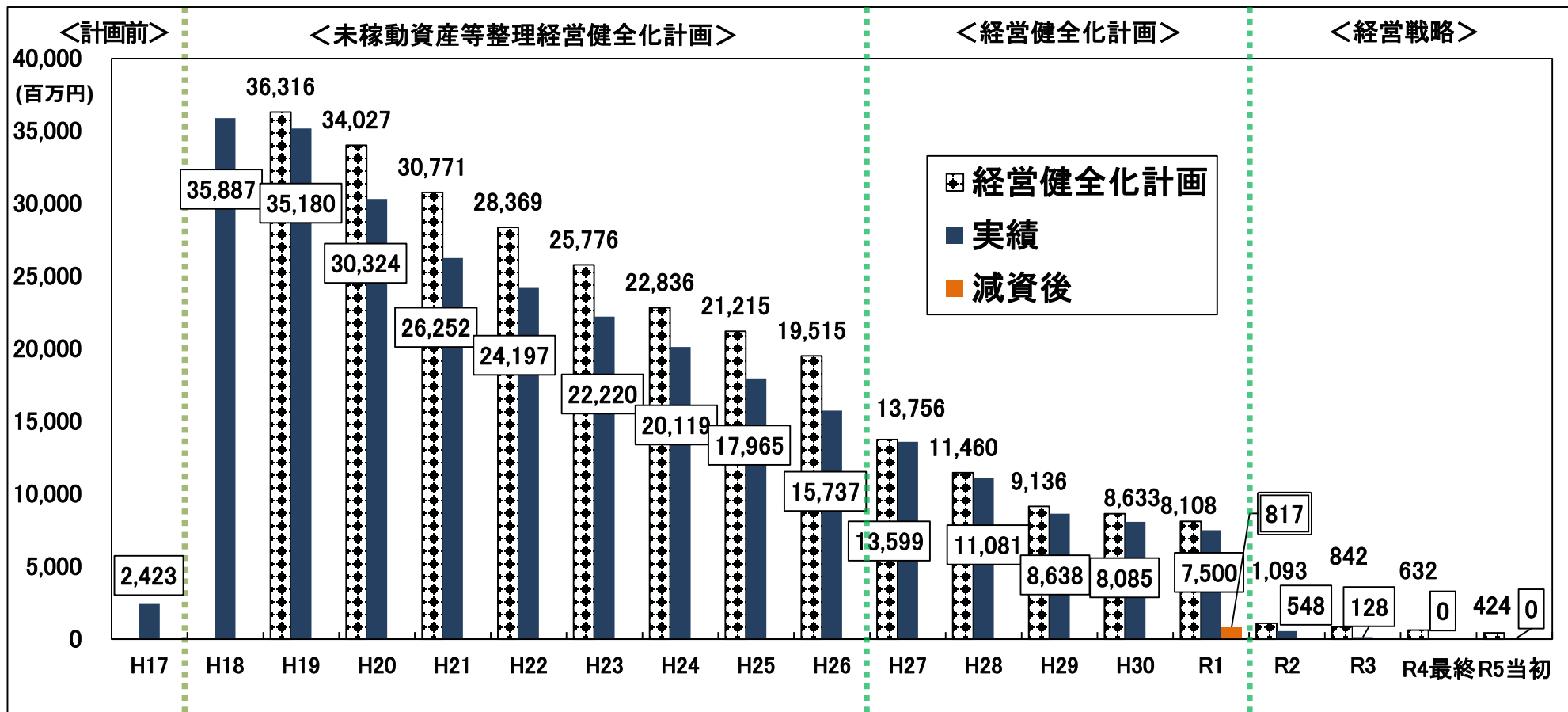


○未稼動資産整理債は平成18年度に約176億円、平成19年度に約17億円の合計約193億円を借り入れ、平成28年度に償還終了

○建設改良事業債は、未稼動資産整理に伴う繰上償還、並びに未稼動資産整理債への借換えにより平成18年度及び19年度に大幅に減少した。

○平成30年度以降は、特定の年度において事業が集中することないよう平準化も考慮のうえ計画的に施設の老朽更新・耐震化を実施しているため、横ばいとなっています。

6 未処理欠損金の推移



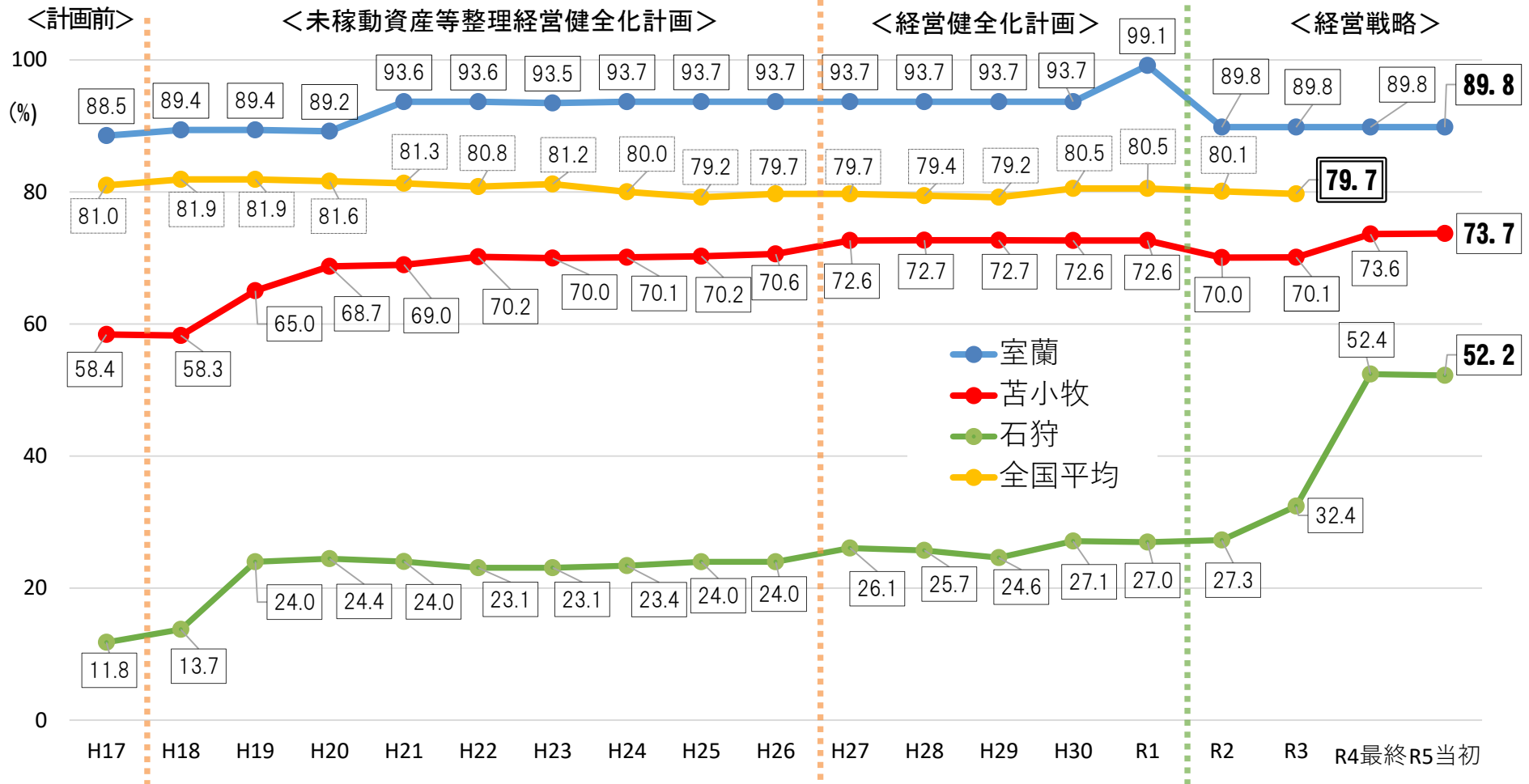
○平成18年度末の未処理欠損金が、未稼働資産整理に伴う当年度特別損失約334億円に前年度までの累積欠損金約24億円を加えた約358億円の過去最大だった。

○その後は、資本剰余金及び利益剰余金を充当し、計画以上の低減を進め令和元年度に約66億円の減資により、令和2年度期首における繰越欠損金を約8億円と大幅に低減。

○経営戦略策定以降においても、繰越欠損金の着実な解消に努め、予定していたR8より前倒して令和4年度期首時点で繰越欠損金は全て解消。

7 契約率の推移

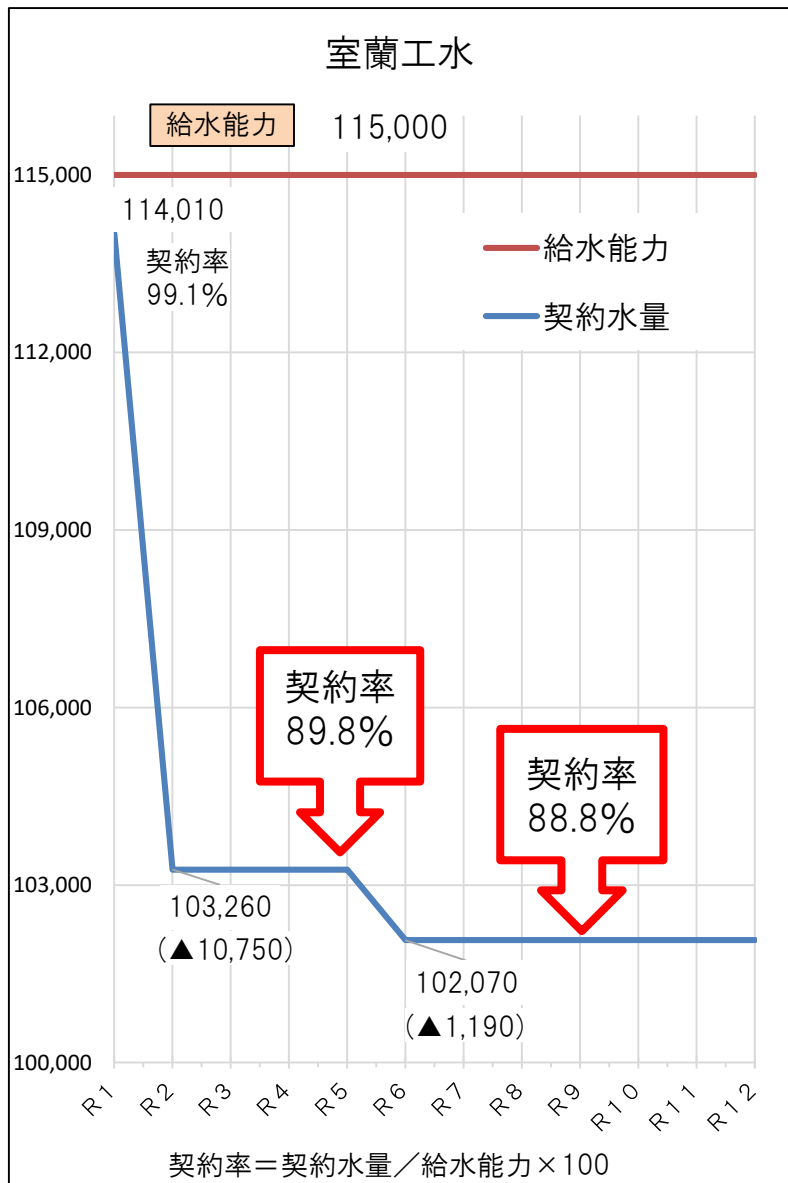
契約率は施設の収益性や効率性を表す指標計算式：契約水量／給水能力×100(%)



○室蘭工水が全国平均を上回っているものの、苫小牧工水と石狩工水は全国平均を下回っている。

○石狩工水は営業開始以来、約25%程度の低い契約率が続いていましたが、近年、再生可能エネルギー関連企業の進出により上昇基調が続いており、契約率が約52%になりました。

室蘭工水における契約水量の動向



(1) A社の減量

契約水量 28,550 t/日(室蘭全体の24.8%) → 17,800 t/日(▲10,750 t/日)

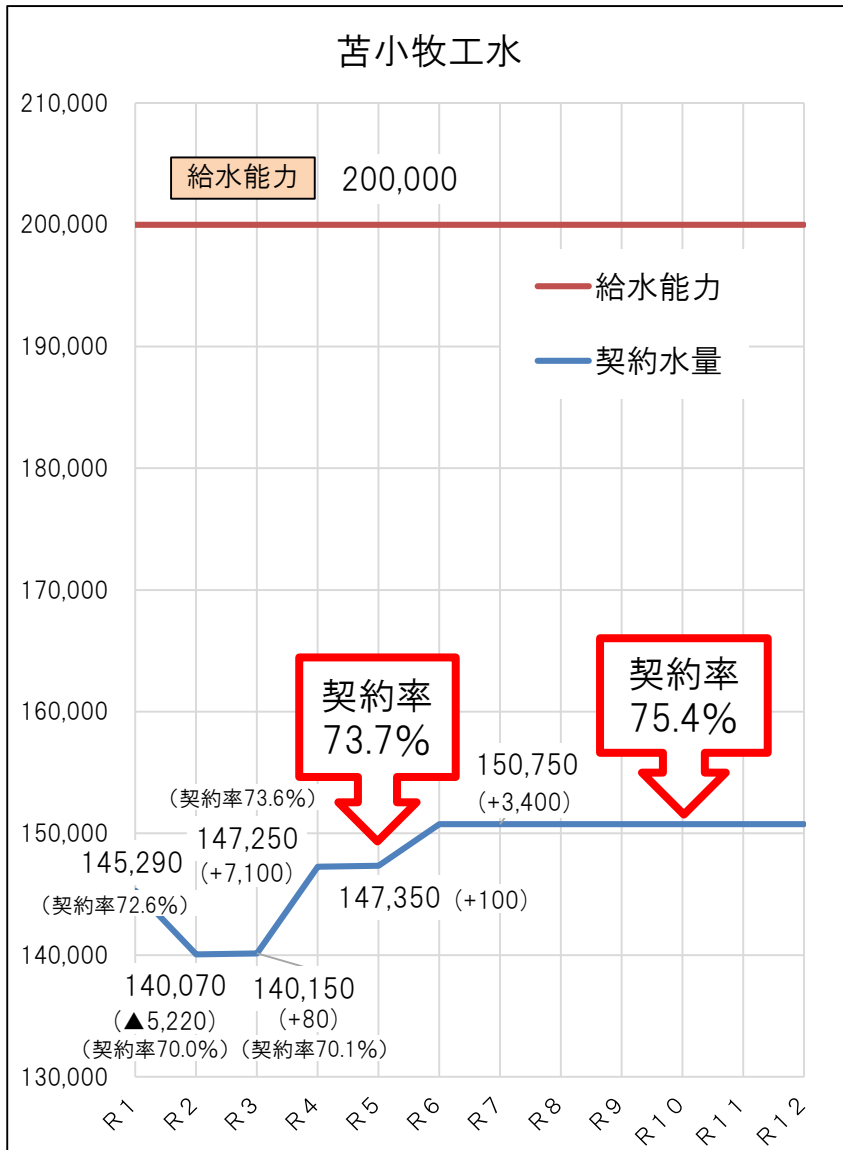
○「基本使用水量の減量及び廃止の取扱い」(管理者決定)に基づき、経営への影響を軽減するため減量負担金を徴収した上で、将来にわたり安定経営を維持できる範囲内で減量を認めた。

(2) B社の事業廃止

契約水量 1,190 t/日 → 0 t/日(▲1,190 t/日)

○国が全額出資して設立した同社の事業廃止が予定されている。

苦小牧工水における契約水量の動向



(1) C社の減量

契約水量 28,600 t/日 → 22,880 t/日 (▲5,720 t/日)

○「基本使用水量の減量及び廃止の取扱い」(管理者決定)に基づき、経営への影響を軽減するため減量負担金を徴収した上で、将来にわたり安定経営を維持できる範囲内で減量を認めた。

(2) D社

【工水使用計画】

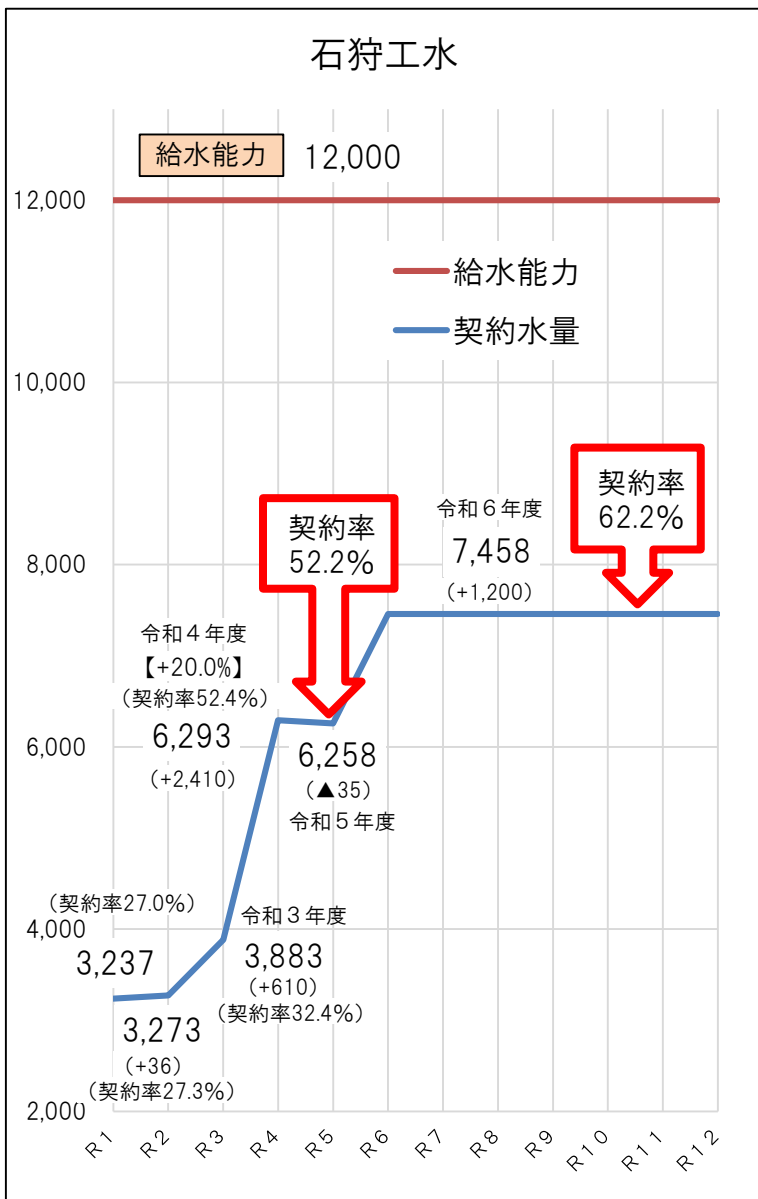
令和4年 9月～	5,700m ³ /日	
令和4年12月～	7,100m ³ /日 (1,400m ³ /日)	()内は増減

(3) E社

【工水使用計画】

令和6年 3月～	100m ³ /日	
令和6年 9月～	3,500m ³ /日 (3,400m ³ /日)	()内は増減

石狩工水における契約水量の動向



(1) F社

【工水使用計画】

令和2年10月～	48m ³ /日	()内は増減
令和3年12月～	480m ³ /日 (432m ³ /日)	
令和4年4月～	3,000m ³ /日 (2,520m ³ /日)	

(2) G社の廃止

契約水量 35 t/日 → 0 t/日 (▲35 t/日)

(3) H社(計画中)

【工水使用計画】

令和4年9月	→	最も早くても令和6年9月	1,200m ³ /日
--------	---	--------------	------------------------

(4) I社

【工水使用計画】

1号機	平成30年10月稼働	600m ³ /日 (300m ³ /日)	()内は増減
2号機	令和16年12月稼働予定	1,070m ³ /日 (470m ³ /日)	
3号機	令和19年12月稼働予定	1,600m ³ /日 (530m ³ /日)	

【参 考】

北海道企業局経営戦略（R2年度～R11年度）

趣 旨	○企業局が経営環境の変化や、これに伴う経営上の課題等を踏まえ、計画的かつ効率的で透明性の高い経営を進め、将来にわたって道民へのサービスの安定的な供給を継続していくための基本計画として策定
策定年月	令和2年3月
計画期間	令和2年度から令和11年度まで（10年間）
目 標	○経営基盤の強化 ○工業用水の安定供給
主 な 取 組	<p>○経営基盤の強化</p> <p>①需要の開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工業用水需要開拓促進連絡会議により関係機関等と連携強化して企業誘致を推進 ・外部有識者による「北海道企業局工業用水道事業経営懇談会」の意見を参考に需要開拓を推進 ・広報・PRなど情報発信を推進(Facebook、メルマガ、ダムカード、工水カード等) <p>②経費の抑制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設管理運営委託の推進 ・企業債の据置期間等の見直し <p>③適切な料金設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現行料金を基本とする <p>④一般会計からの繰入金</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不良債務の発生を防ぐための一般会計から繰入金を確保 <p>⑤石狩工水の事業運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能なお運営のため関係部局と検討を進める <p>○工業用水の安定供給</p> <p>①管路の老朽更新及び耐震化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・費用の平準化を図りながら計画的に更新 <p>②施設（管路以外）の強靱化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耐震診断結果を踏まえ、施設の重要性や劣化度合い等から優先度設定し耐震化計画を策定する。